

最後に今回の事に就き、吾人貝類學を研究せんとするものが、普通唯貝殻のみを以て、種屬を判定せんとすることの甚だ不得策たるを熟々感じました。前述の通り唯貝殻のみに依て鑑定すると、何人と雖も *Blanfordia* 少なくも之れに近屬のものと認めまして、全く別科にこれを編入することに成ります。過てる者は獨り余輩のみでなかつたことを後に發見しました、即ち平瀬氏は前に北米費府のピルスブリー氏の許にこれを送られましたから、竊に其の消息を待て居りました、同氏は現今米國唯一の貝類學者で、私も毎度書面を以て教を受けて居る大家であります。然るに昨秋五島博士より書面にて、ピルスブリーよりの來狀に依ると、同氏は此の貝に *Blanfordia minor* の新種名を附し、發表する考だと申して參つたが、既に英國の某雜誌に發表されてあると傳承せしゆゑ、其の雜誌の名を知らして貰ひたい、左すればこれを同氏に報じて遣りたいといふことでありました。余想ひらく流石の鑑識あるピルスブリー氏もこれを解剖する便なく、唯貝殻のみを比較した爲に、全く余輩と同様の誤解に陥つたものと考へ、旁々貝の種屬を決せんとするには、何うしても解剖に依らざるを得ないことを深く感じたのであります。

片 山 病

理科二部四年

| | |
|---|---------|
| } | 奥 村 ふ み |
| | 安 達 智 |
| | 森 口 さ よ |

片山病ハ廣島縣山梨縣佐賀縣ノ或ル地方及ビ支那ノ或ル地方ニ流行スル一種ノ地方病デゴザイマス。此ノ病氣ノ初メテ發見セラレタノハ廣島縣ノ片山村デ、而カモ此ノ地方ニ限ラレテ居タ爲ニ其ノ名ガ出デ山梨縣デハ山梨病ト申スサウデス。

一体此病氣ハ隨分不思議ナモノデ、元氣デ居タ人モ病ニ犯レテハ手足ヲ藻搔イテ苦ミ體ガ熱クナツテ意識ガ朦朧トナリ、讒言ヲ云ツタリスル故科學ノ進歩シナカッタ昔ハ單ニ宗教的迷想ニ驅ラレテ神佛ノ罰デハナイカト思ヒ頻リニ神ヤ佛ニ向ツテ平癒ヲ祈ツタナドハ無理ナラヌコトデアリアス。今デハ科學進歩ノ御蔭デ病ハ外界ノ刺戟或ハ外物ノ侵入ニ依リ、人体ヲ構成シ居ル組織ヤ機官ノ實質ニ變化ヲ及ボシ爲ニ其ノ機能ヲ妨碍シ、延テ精神上ニモ影響スルモノト考定セラレ、ヤウニナリマシタ。此ノ病ヲ起ス外界ノ刺戟及ビ外物、即チ病原ニハ様々アリマスガ、食物又ハ空氣ヨリ來タルモノ最モ多ク遺傳ニヨルモノハ寧ロ少ナイ方デアツテ病原蟲ヤ病原菌ニ因ルノガ普通デアリマス。

此所ニ述ブル片山病ハ日本住血吸蟲ト云フ吸蟲類ノ一種ニヨルモノデアリマス。醫學雜誌ニ就テ調べマシタ所ニヨルト、七十年程前カラ此ノ病ノ知ラレテ居タトガ、片山記ト云フ本ニヨツテ分ルサウデス。明治廿一年頃佐賀縣ト山梨縣トニ流行スル病ハ同ジ片山病デアルト分リマシタガ、病原蟲ハ肺デストマナラント誤認セラレテ居リマシタ、卅七年ニ河西氏ガ肝臟大小腸腸間膜等ニ一種ノ卵ヲ發見シ、此ノ病ハ一未知ノ寄生蟲ニヨルモノトセラレマシタガ其ノ後藤波氏及ビ桂田博士ハ其ノ原蟲ヲ人及ビ猫ニ發見シ日本住血吸蟲ト命名シマシタ。略ボ同ジ頃英國ノ醫師カットート云フ人ガ、一支那人ニ或ル吸蟲ヲ發見シ之ヲ[シストソーラム、カットー]ト命名サレマシタガ是ハ既ニ我ガ國デ發見セラレタ日本住血吸蟲ト同一物ナル事ガ分リ從テ學名ハ終ニ[シストソーラム、ジャボニカム]トナツタトノ事デアリマス。尙此ノ蟲ノ生活史ハ長ク不明デアツタガ一昨々年ノ暮宮入博士ガ其中間宿主ヲ發見セラレタ爲ニ、生活史ガ明ナリ、爾來豫防衛生法ガ研究セラル、ヤウニナリマシタ。

本病原蟲ノ雄ハ体長約 15.5 耗表面ハ多ク平滑末端ニ小棘ヲ有シ、時トシテ体面ニ散在シテキル事ガアルサウデス。淺イ絞搾部ニヨリテ短キ前体部ト、長キ後体部トニ區別セラレ其ノ前体部ニ口吸盤及ビ腹吸盤ヲ具ヘ

後体部ハ著シク長クシテ末端ハ尖リ、蟲体ノ兩側縁ハ全部腹中線ニ向ヒ、彎曲シテ、殆ド管狀ヲ成シテ居リマス。雌蟲ハ約 18.8 耗デ圓筒狀ヲナシ細長イ前体部ト太クシテ稍短キ後体部ヨリ成リ色ハ内容物ニヨリテ黒色又ハ黒褐色ヲ呈シ、表面ハ多ク平滑デアリマス。体ノ前ニ二ツノ吸盤ヲ具フルコトハ雄ト同様デアリマスガ中央部ハ最太ク後方ニ至ルニ從ヒ細クシテ尖ツテ居マス。此吸蟲ノ他ト異ツテ奇態ナルコトハ成長ノ後雌雄ガ互ニ抱キ合ツテキル事デアル、即雌ハ腹側面ノ溝ノ中ニ雄ヲ抱キ離ル、事ナクシテ殆ド一体ノ如クニ成ツテキルノデアリマス。

次ニ傳播ニ就テ申シマス此ノ寄生蟲ニ感染スル動物ハ人類犬猫牛馬等デアリマス。卵ガ宿主ヲ出ル時ハ主ニ糞便ニ雜リ偶々水中ニ落ちマスト卵中ニハ幼蟲(ミラヂユウム)スデニ成熟シ水温ノ適度ナル時ニハ殻ヲ脱ギ去リ中間宿主ヲ捜シ索メテ其ノ体内ニ侵入シヤウトスルノデアリマス。幼蟲ハ大抵夏ハ二十四時間、冬ハ四十八時間デ死シ、水潔ナル水中デハ直チニ死スルノデアリマスガ夫レ迄ハ活潑ニ水中ヲ泳ギ廻リマス。中間宿主ハ水陸兩棲ノ小貝ノ一種デ、大正二年ニ宮入博士ガ初メテ發見セラレ、片山貝トナヅケラレテアリマスかはになニ似テ大ナルモノデモ長サ九耗ヲ超エマセズ。又此ノ

貝ノ習性ニ就テ申シマスト初メ水中デ發育致シマスガ成長ノ後ハ水ヲ離レテ生活スル事ヲ好ミ常ニ水邊ノ草ニ匍ヒ上リテ棲息シ飢エテ食ヲ索ムル時ニアラザレバ水中ニ入りマセン。從テ水盤中ニ養ヒ置ク時モ多クハ器壁ヲ上リテ水中ニアルコトハ少イ故ニ田圃ニ之ヲ採集スルニ臨ミ水底許リサグツテ得ラレズ水草ヲ搖リ動かセバ無數ニ散リ落チテコレヲ採集スルニ容易ナリトイヒマス。幼蟲ガ貝ニ出逢ヒマスト忽チ貝ノ皮膚ニ附着シ吻ヲ延バシテ之レヲ皮面ニオシツケ、体ヲ棒ノヤウニ細長クシテ全身ノ力ヲ籠メ少シク貝ノ表皮中ニ入りマスト体ヲ縮メ、又棒狀ニ延ビテ復ビ体ヲ縮メ、カクシテ体内ニ入ルノデアリマス。是ヨリ除々ニ組織ヲ通過シテ、血液ニ伴ヒ肝臟ニ達スレバ簡單ナル囊狀ノ「スキロソ」ト成リ次ニ「レジア」ニ變ジテ是ヨリ多數ノ「セルカリア」ヲ生ジマス。「セルカリア」ハ極メテ小サナモノデアルガ形ハ蝸斗ニ似テ尾ヲ持チ、口腹兩吸盤ガアツテ口吸盤ニ割合長キ刺ヲ具ヘテキル。活潑ニ運動シ貝ノ組織ヲ破リテ水中ニ出デ泳ギ廻リテ終局ノ宿主タルベキ人又ノ獸類ノ体ニ入ラムトシテ居リマス。ソコデ丁度春カラ夏ニカケテ農夫ガ田デ働イテ居ル時ニ下腿部ノ皮膚ヲ貫イテ侵入スルノデアリマス。一旦侵入シマスト皮膚ヲ發シテ地方性「カブレ」トイフ一種ノ皮膚病ニ成リマス

此ノ「カブレ」ハ普通農夫ニ見ル所ノ水「カブレ」肥「カブレ」又ハ田「カブレ」ト稱スル皮疹ト違フサウデアリマス。「セルカリア」ガ皮膚ニ侵入セムトスルトキハ尾ヲ脱シ是ヨリ靜脈管淋巴管ノ媒介ニヨリ一度門脈系統ニ達シマスル間ニハ十分ニ發育ヲトゲ二十日前後デ既ニ雌雄受精ヲイタシ、次イデ産卵シマスカラ三十日乃至四十日目ニハ人ノ糞便中ニソノ卵ヲ認メルヤウニナリ、卵ノ最多ク見出サル、所ハ肝臟大腸デアリマスガ、其ノ他胃、脾、膵、副腎、肺臟、腦ニモ見ラル、コトガアルサウデス。コノ傳播ニツキマシテハ大正二年二月ノ官報醫事新聞第八百九十九、九十一、九十五ノ諸號及ビ、小泉理學士ノ人体寄生動物學ヲ參考ト致シマシタ。

此病氣ニ罹リマシテモ患者自ラハ一向ニ氣付カズ、病症ノ進ムニ從ヒ腹部ニ腫瘍ガ出來マシタリ、或ハ他ノ病氣等ノタメニ醫師ノ診察ヲウケテ偶然ニ發見セラル、サウデアリマス。然シ前ニ申シ上ゲマシタ地方性「カブレ」ガ抑々此ノ病氣ニ犯サレタ初メテノ徵候ナノデアリマス。

病狀ハ年齢及ビ發病期ニヨリマシテ一定致シマセンガ初メハ食欲亢進ヲ來シ、呼吸困難トナリ時トシテハ發熱下痢等ヲ起ス事モゴザイマス。次ニ肝臟ガ肥大シ、脾臟モ膨大シ、病氣ガ更ニ進ミマスト腸部ノ上方ガ異様ニ

膨大シ、營養不良トナリマシテ皮膚ノ色ガ黄バミ顔ハ蒼白トナリマス。ソノ他吐血ヲシタリ、胃腸ノ出血ガアリマシタリ、腹水ニカ、リマシテ終リニ死ニ至ルサウデゴザイマス。内臓中、最モ犯サレヤスイノハ肝臓デゴザイマシテ初メハソノ表面ニ凹凸ヲ生ジ、漸次肥大シテ硬變致シマス。次ニ脾臓ニ腫物ガ出來肥大シテ肝臓ハ反對ニ萎縮シマス、脾臓ノ膨大致シマスノハコノ病氣ノ特徴デゴザイマス爲ニコノ病氣ヲ肝脾肥大症ナドトモ申スサウデゴザイマス。片山病ハ慢性デアリマシテ短クモ一二年、永ケレバ數年以上ニワタルト云ヒマス。

次ニ申シ上ゲマス事ノ多クハ、山梨地方ニ於テシラベラレタ該病流行ノ狀況デゴザイマス。

山梨地方ニ於テ最モ流行ノ盛ナル所ハ富士川ノ二支流笛吹川ト釜無川トノ間ニアル村落デアリマシテ、甲府ノ町ヨリ北方三里バカリ離レテアル登美村鹽崎村ナドガ激ダシイサウデゴザイマス。カツテ鹽崎村デ徴兵検査ヲ行ヒマシタ時村役場ニ出頭シタ壯丁十六人中半分ハコノ病氣ニ犯サレテ居リマシタサウデス。同村ニ於ケル古來ノ云ヒ傳ヘニ「登美村ニ嫁入セント欲スルモアラバ宜シク棺柩ヲ持參スベシ」ト云フ事ガアリマス又村民ガ子女ヲ戒メテ「汝等假初メニモ登美ニ赴クベカラズ、萬一ヤムヲ得ザル事情ニヨリテ登美ニ赴クトモ、決ッ

テ水ヲ喫スル事ヲ許サズモシ此ノ事アラバ忽チカノ恐ルベキ腹ツバリノ襲フ所ナラン」ト申シタサウデゴザイマス。腹ツバリト申スノハ片山病ノ事デアツテ昔ハ飲料水ヨリ病氣ガ傳ルモノト思ヒマシテカク水ヲノム事ヲ戒メタノデゴザイマセウ登美村ガイカニ此ノ病氣ノ猛烈ナル地方デアツタカラ推察スル事ガ出來マス。統計ニヨリマスト、本病ハ多ク十歳以上廿歳マデ一番犯サレヤスイ、殊ニ女子ヨリモ男子ノ方ガ多イノデゴザイマシテ、男子四ニ對シ女子一ノ割合ニ成ツテ居リマス。コレハ畢竟田面ヘ出テ働クノハ男子ガ多イタメデゴザイマセウ同シ農家デモ中流以上ニナリマスト自ラ耕作ニ従事スル事ナク子弟ニモ強イテ勞働ヲサセマセンカラ、犯サル、機會モ少イノデゴザイマス。同地方ニハ代々コノ病氣ニ罹ル家モゴザイマスガ、ソレハ遺傳デアリマセンノデ、ソノ家ノ家族ガ病氣ニ罹リヤスイ事情ニ多ク接スルカラデゴザイマス。

豫防法ニツイテハ専門家ノ今尙研究中デ良法ハナイ様デアリマスガ、病原蟲ノ生育ヲタツタメニ疑ハシイ川又溝ニハ生石灰ヲ撒キ入レ又中間宿主ノ貝ヲ撲滅スルタメニハ村町等ノ費用デ之ヲ買ヒ上ゲタリスルノモノ方法デゴザイマス。

次ニハ病原蟲ノ侵入ヲ防グ事デゴザイマシテ流行地

方ノ川ニ游ギラシタリ、魚ヲ漁ルタメニ川ニ入ル事ヲ避クルノガ最モ無難ノ方法デアリマスガ併シ農夫ガ田ヲ耕スニハ水ニ入ラヌ譯ニハ參リマセシウコデ假令ヒ水ニ入リテモ病原蟲ノ侵入スルヲ防ガンガ爲ニ足ヲハ縲眼ノ緻密ナル布デ巻キ、手ニハ手甲ヲ穿イテ作業ニ從事致シマス、ソレデ此項ハ此ノ病氣ニ犯サレルモノガ大ニ減ジタサウデゴザイマス。豫防トシテハ以上ノ様ナ事デゴザイマスガ猶近頃土屋醫學博士ハコノ病氣ノ藥劑ヲ研究シテ居ラル、サウデゴザイマス。

以上ハ山梨地方ノ方ニ就テ承リマシタ事及ビ醫學雜誌ニ參考致シマシタ事ヲ取りマトメタモノデ御座イマス。

軍 用 毒 瓦 斯

理一四 遠藤松代 福田ウメ

長谷川 たま 庄司 みどり

萬國平和會議ノ條件アルニ係ラズ有毒瓦斯及ビ燒夷物料ハ文明ノ中心ヲ以テ目セラレタル歐洲戰爭ニ於テ使用セラレタリ此等ノ物料ハ從來戰爭行爲中最モ擯斥スベキモノトシテ憚リシモ既ニ現今ノ戰爭ニ於テ盛ニ使用セラレツツアル事實ニ徴セバ將來ノ戰爭ニ於テモ亦條約ノ有無ニ係ラズ此等物料ノ使用セラレルヤ疑フ

入レザル所也。

故ニ吾人ハ將來此等ノ物料及ビ此等類似ノモノニシテ荷クモ戰爭ニ使用シ得ベキ物ハ平時ニ於テ講究スルノ必要ヲ感知セズンバアラズ之ヲ以テ吾人ハ今度ノ戰役ニ於テ使用セラレタル此等物料及ビ使用法並ニ防護ノ方法ニツキ知り得タル範圍ニ於テ之レヲ輯録セリ希クハ此等講究者ノ參考ノ一端タルヲ得ンカ只ニ吾人ノ喜ビニアラザルナリ。扱テ今古ヲ問ハズ洋ノ東西ヲ論ベズルテノ事共年ト共ニ漸次進歩發達シツツアルハ云フマデモナキ事ナリ故ニヤ戰術モ度毎ニ發達シ從ツテ戰鬪用具モ進歩セリ即チ我國上古ニ於テハ弓矢ヲ以テ戰鬪具ノ最上ナルモノトセリ楠正成ノ時代ニハ殆ンド鐵砲ノ使用ヲ見ザリシモ織田信長時代ニハ盛ニ之レガ使用ヲ見タリキカクテ日清日露ノ兩戰爭當時ハ唯一ノ用具トシテ使用セラレルニ到レルヲ見ル轉ジテ眼ヲ歐米ニ廣メンカ恰モ我國ニ於ケル漸次ノ發達進歩ト同様ニシテ終ニ18世紀以來獨逸戰爭(1866)獨佛戰爭ニ到リテハ盛ニ鐵砲大砲ヲ使用シ同時ニ海軍ニ於ケル戰鬪振リヲ一新セリ即チ今日使用セラレル軍艦ノ出現ヲ見ルニ到レル也。

今度ノ戰爭ハ言ハバ大砲ノ戰爭時代トモ云フベク何處ノ戰爭ニ於テモ之レガ使用ヲ見ザルハナカルベシ然